

# ジェンダー不平等指数 (GII) 分析 とジェンダー・エンパワーメント尺度 (GEM) 修正版作成の試み

倉 本 由紀子

国連開発計画(UNDP)は、2010年度版「人間開発報告書(Human Development Report)」の中で、ジェンダー開発指数(GDI)とジェンダー・エンパワーメント尺度(GEM)を一本化したジェンダー不平等指数(GII)を発表した。しかしGIIは、今までGDIとGEMが扱ってきたジェンダー不平等問題を的確に把握し、各国のジェンダー不平等を是正する為の有効な手段となり得るであろうか。本稿は、GIIとGEMの比較分析を行い、GIIによるジェンダー・エンパワーメント尺度の代替可能性を検討し、GEM修正版の作成を試みた。GEM修正版は、男女共同参画に関する客観的変数かつ主観的状况を含みこんだ包括的で、国際比較が可能なジェンダー・エンパワーメント尺度である。従来指標に用いられることのなかった性差別意識は、複雑なジェンダー不平等問題の可視化と数値化を模索することに寄与し、GEM修正版で上位にランクする国は、ジェンダー不平等の改善を可能にするジェンダー・エンパワーメントの整備が進んでいることが示唆された。また、政治・経済・教育・保健分野での男女格差を反映するグローバル・ジェンダー・ギャップ(GGGI)との順位相関関係の検証から、GEM修正版の有効性に言及した。

キーワード：ジェンダー不平等指数 (GII) , ジェンダー・エンパワーメント尺度 (GEM),  
ジェンダー・エンパワーメント, 価値観, 男女共同参画

## 1. はじめに

世界開発報告書 2012 は、ジェンダー不平等は全体的に改善されつつあるとしながら、ジェンダー平等に向けた社会全体の取り組みが依然不可欠であると主張する。その中で挙げられたジェンダー不平等を改善するための優先課題は、次の4つであった。1) 女性の(不必要・不自然な)死亡率を下げ、残存する就学率の男女格差をなくす 2) 女性の経済活動参加の機会へのアクセスの改善 3) 家庭内の女性の意見や社会での女性団体の数を増加させる 4) 世代を越えたジェンダー不平等の再生産を制限する (World Bank 2012: 36)。日本でも、2009年に行われた内閣府男女共同参画局の「社会全体における男女の地位の平等観」についての調査で、71.6%の人が「男性の方が優遇されている」と回答し、依然ジェンダー不平等が改善されたとは言えない(男女共同参画局 2011)状況である。ジェンダー指標は、国際的な比較が可能で説得力にも優れるため、メディアや政策提案書、また学術論文にもしばしば登場し、ジェンダー不平等に対する問題提起の手段として活用されてきた。

本稿では、まず2010年に国連が発表したジェンダー開発指数(GDI)とジェンダー・エンパワーメント尺度(GEM)を一本化したジェンダー不平等指数(GII)を検証する。そのうえで、男女共同参画の推進ならびに社会における男女不平等格差の是正の促進に寄与するジェンダー・エンパワーメントをより包括的に把握する国際的なジェンダー尺度の構築を目的とする。目的遂行にあたり本稿では、次の手順を取る。まず、GDIとGEMを一本化したGIIの有効性を検証したのち、オルタナティブで国際的な指標として、GEMに男女共同参画に対する社会意識を加えたGEM修正版を作成する。最後に、GEM修正版の有効性を、政治・経済・教育・保健分野における男女格差を算出した世界経済フォーラムのジェンダー指数であるグローバル・ジェンダー・ギャップ指数(GGGI)との相関関係から検証する。

## 2. ジェンダー指標検証：GDIとGEMを一本化したGII

「人間開発は、ジェンダー問題が解決されない限り危機に瀕する。」(国連開発計画 1995, 1)と国連開発計画(UNDP)は、1995年版の人間開発報告書で訴え、ジェンダー不平等を測る二つの複合測度としてジェンダー開発指数(GDI)とジェンダー・エンパワーメント尺度(GEM)を発表した。ジェンダー指標の必要性について、UNDPは「いかに不十分なものであろうともジェンダー不平等の問題を社会問題として提起するためには、だれかが始めなければならない。とり

わけ政策立案者には、複合測定を用いることが自国のためにも他国のためにも役に立ち、ジェンダー上の能力や参加の機会のどこが重大な欠陥なのか、あるいは、行動計画のなかでの何を優先事項にするのか決めるのに役立つであろう」(国連開発計画 1995:82)と述べている。GDI は、人間開発指数(HDI)を構成する平均余命、教育達成度、勤労所得の男女格差を考慮するよう調整する方法で測定され、GDI の構成要素は、①推定勤労所得の男女差 ②平均余命 ③成人識字率 ④初等・中等・高等教育総識字率であった。また、GEM は、基本的な能力と生活水準に焦点を当てた GDI とは異なり、経済、政治、専門職活動における女性の参加を測定した指標で、構成要素は、①国会議員に占める女性議員の割合 ②上級行政職・管理職に占める女性の割合 ③技術職・専門職に占める女性の割合 ④男女の推定勤労所得の差を表すものであった(国連開発計画 1995)。

ジェンダー指標として 15 年間使用されてきたこの二つの指数は、様々な評価や批判を受けてきた。Dijkstra と Hanmer は、地域コミュニティへの参加率や、家庭内における意思決定への参加、身体的自由の尊重等、ジェンダー不平等に関係する重要な要因を考慮に入れていないと指摘し(Dijkstra and Hanmer 2002)、Dollar と Gatti は、UNDP のジェンダー指標構成要素は、一見ジェンダー平等な社会でも、ジェンダー不平等が社会の一側面で起こっている場合や、開発途上国の女性の深刻なニーズに答えるように考慮されていないと批判した(Dollar and Gatti 1999)。Jutting と Morrisson も、開発途上国特有の社会的な枠組みにおけるジェンダー不平等さを配慮していないと批判した(Jutting and Morrisson 2005)。しかし 1995 年当初から、UNDP は入手できるデータの限界を理由に、ジェンダー不平等にかかわる重要な側面(地域社会の生活や意思決定への参加、家庭内での資産の消費、人間としての尊厳や個人の安全等)を含むことが不可能であったことを認識していた(国連開発計画 1995:83)。多くの批判がある中、ジェンダー指標は、国際比較が可能であるため、ジェンダー不平等さを訴えるアピール度やジェンダー視点の必要性を説得する力があるとされ、特に男女共同参画が遅れ気味な日本においては、GEM はしばしば使用された。

表 1 は、GDI と GEM、そしてこの 2 つの指数を一本化した GII の国別ランキングを比較したものである。3 つの指数で上位を占めるスウェーデン、ノルウェーやフィンランドは、比較的ジェンダー不平等が改善されつつある。あらゆるジェンダーに関する変数を選択し合成尺度を作成しても、ジェンダー不平等指数が低いことが、ジェンダー平等への道である。しかし、例えば日本の場合、GDI と GII では 14 位だが、GEM で 57 位とランク付けされ、大きな差異が生じており、GDI と GEM を一本化した GII だけに目を向ければ、日本のジェンダー不平等度は世界的基準上低いということになるが、日本のジェンダー不平等は果たして改

表1 GII (2011), GDI (2009), & GEM (2009) 上位 30 カ国

順位	GII (2011)	GDI (2009)	GEM (2009)
1	スウェーデン	オーストラリア	スウェーデン
2	オランダ	ノルウェー	ノルウェー
3	デンマーク	アイスランド	フィンランド
4	スイス	カナダ	デンマーク
5	フィンランド	スウェーデン	オランダ
6	ノルウェー	フランス	ベルギー
7	ドイツ	オランダ	オーストラリア
8	シンガポール	フィンランド	アイスランド
9	アイスランド	スペイン	ドイツ
10	フランス	アイルランド	ニュージーランド
11	韓国	ベルギー	スペイン
12	ベルギー	デンマーク	カナダ
13	スペイン	スイス	スイス
14	<b>日本</b>	<b>日本</b>	トリニダード・トバコ共和国
15	イタリア	イタリア	イギリス
16	オーストリア	ルクセンブルグ	シンガポール
17	チェコ	イギリス	フランス
18	オーストラリア	ニュージーランド	アメリカ
19	ポルトガル	アメリカ	ポルトガル
20	カナダ	ドイツ	オーストリア
21	キプロス	ギリシャ	イタリア
22	イスラエル	香港	アイルランド
23	マケドニア	オーストリア	イスラエル
24	ギリシャ	スロベニア	アルゼンチン
25	ポーランド	韓国	アラブ首長国連邦
26	ルクセンブルグ	イスラエル	南アフリカ
27	クロアチア	キプロス	コスタリカ
28	スロバニア	ポルトガル	ギリシャ
29	リトニア	ブルネイ	キューバ
30	エストニア	バルバトス	エストニア
57			<b>日本</b>

出典：Human Development Report 2009 & 2011 を参考に筆者が作成

善されたのであろうか。

## 2.1 ジェンダー不平等指数 (GII) の考察

国連開発計画 (UNDP) は、2010 年度の「人間開発報告書」に、新しいジェンダー指標として、ジェンダー不平等指数 (GII) を導入した。1995 年から使用されてきた GDI と GEM を一本化し変数を調整した GII は、リプロダクティブヘルス (妊産婦死亡率と若年妊娠出産率)、エンパワーメント (議員の男女比と初等・中等教育の男女差)、労働市場 (女性の労働市場参加率) の 3 つの側面でのジェンダー不平等度を算出したものである。GDI と GEM の変数の一つであった推定収入における男女格差は、測定方法や基準設定で問題が多かった為、GII には使用されていない。

GII の有効性の分析として、UNDP は 2011 年度版人間開発報告書で、リプロダクティブチョイス、持続可能な環境 (sustainable environment) への影響を示唆した。リプロダクティブヘルス分野では、世界の約 4800 万人の女性が医療専門家の手を借りず出産し、また約 200 万人は独りで出産している。そのため、出産時または出産後 48 時間以内に死亡する女性数は 15 万人、乳児は 160 万人にのぼる。そして UNDP は、各国の避妊普及率とジェンダー不平等に高い相関関係があることに言及し、GII 指数の高い (ジェンダー不平等度が高い) マリ、モーリタニア・イスラム共和国やシエラレオネ共和国の避妊普及率は 10% に満たないと指摘する。また、また、リプロダクティブチョイスに関連して、家族計画の有無で左右される世界人口の推移は地球の二酸化炭素排出量とも相関関係があるとして、「持続可能な環境 (sustainable environment)」にも、ジェンダー不平等はネガティブな影響を与えると分析する。

UNDP は、さらに政策決定過程における女性の参加率と環境政策についても触れている。1) 25 の先進国と 65 の開発途上国における調査で、国会議員の女性の占める割合が高い国ほど、国土保護政策を優遇する傾向にあることが明らかになった。2) 世界人口の 92% を占める 130 の国々を調査した結果では、国会議員に女性が占める割合が高い国は、環境問題における国際条約を批准する可能性が高かった。3) 1990 年から 2007 年に二酸化炭素排出量を削減した 49 ヶ国中で、14 ヶ国の人間開発指数が高く、その中の 10 ヶ国は、国会議員の女性比率も高かった。このように環境政策においても国会議員の女性比率という文脈でのジェンダー不平等が影響していると思われる。しかしながら、同比率は、世界全体では平均 19% といまだ低く、閣僚の割合では 18% である。さらに政治最高指導者が女性であるのは 192 ヶ国中 11 カ国だけであると、女性のリーダーの少なさも指摘している (UNDP 2011 Human Development Report : 61-5)。このように、

UNDP は、国際社会の諸問題におけるジェンダー不平等の影響を示唆する指標として、GII の有効性を強調している。

## 2.2 GDI & GEM と GII の比較考察

次に GDI と GEM の代替指標としての GII の検証を試みる。GII と GDI, GII と GEM の相関関係のみてみると、前者の相関係数は、0.878<sup>(1)</sup> と相関が強く、GII が GDI を代替することにあまり問題がないと考える。GII と GEM の相関係数は、0.756<sup>(2)</sup> と相関は強いが、GII と GDI ほど高くはないことがわかる。しかし表 2 の通り、国別順位で比較すると大きな差異が出た国が多く、例えば日本は、2009 年の GEM では 57 位だったが、2010 年の GII では 12 位であった。GII が GDI と GEM を一本化したジェンダー指標であるなら、日本はジェンダー不平等が飛躍的に改善されたことになる。実態として日本の就労女性は増加したが、管理職の女性比率は部長で 4.4%、課長は 7.7% といまだ非常に低く<sup>(3)</sup>、日本国内大企業の女性役員比率は 1% 未満である。「先進国では異例の低さ」と言われるほど、社会における男女格差が大きいとされる日本が、ジェンダー平等度で世界 14 位であるとの結果には疑問が残る。またアメリカの場合は、2009 年の GEM では

表 2 GII (2010) と GEM (2009) の順位差

	GII の順位の方が高かった国 (カッコ内は順位差)	GEM の順位の方が高かった国 (カッコ内は順位差)
10 位～ 19 位差	・ロシア (19)・ハンガリー (18) ・マレーシア (18)・セルビア (17) ・スリランカ (16)・クロチア (14) ・イタリア (12)・ポーランド (12) ・スイス (11)・ラトビア (11)	・エルサルバドル (19)・フィリピン (19) ・アメリカ (19)・キューバ (18) ・イギリス (17)・ニュージーランド (15) ・パキスタン (13)・オーストラリア (11) ・コロンビア (10)
20 位～ 29 位差	・ルーマニア (28)・アマーニア (27) ・モルドバ (26)・モーリシャス (25) ・グルジア (24)・トルコ (24) ・ドミニカ共和国 (23)・チリ (22)	・メキシコ (29)・イエメン (29) ・ネパール (27)・ボツアナ (26) ・コスタリカ (24)・サウジアラビア (22) ・アラブ首長連邦 (20)
30 位差 以上	・モルディバ (50)・日本 (45) ・ウクライナ (42)・アジャビジャン (42) ・韓国 (41)・マルタ (39)・モンゴル (37) ・アルジェリア (35)・中国 (34) ・トリニダード・トバコ (34) ・キプロス (33)	・ギアナ (61)・ウガンダ (60) ・南アフリカ (56) ・ホンジュラス (47)・エクアドル (45) ・ガイアナ (39)・ペルー (38) ・アルゼンチン (36)・パナマ (34) ・ナミビア (32)・ザンビア (32) ・ニカラグア (30)

出典：UNDP 人間開発報告書 2010 & 2009 のデータを基に筆者が作成

18 位であったが、2010 年 GII ランキングでは 37 位となり、こちらはジェンダー平等度が後退したことになる。表 2 から、両順位の差が 61 位（ギアナ）をはじめ、58 カ国で、10 位から 30 位以上の差があることがわかる。このように、相関係数では、あまり隔たりがないように見えた GII と GEM だが、GII が GEM を代替しているとは言えるのか、慎重に吟味する必要がある。人間開発が進んだ先進国では、教育や保健分野でのジェンダー不平等が是正されても、政治や経済分野のジェンダー不平等は、なかなか改善されない傾向があるので、男女共同参画を多様に把握する指標が別に必要なのではないかと推測しうる。

ジェンダー不平等の現状が客観的に把握できること、この現状をもたらしている原因・要因などの背景と、この現状がうみ出している影響・結果を統計に示すことによって、ジェンダー統計は、問題解決に向けての説得力を増し、そのための計画・政策立案に役立つ（天野 2004：82）が、表 2 のように代替した指数に大きな順位差が生じると、ジェンダー不平等対策においての数値目標などの導入に支障をきたす可能性もある。より有効なジェンダー指標の選択ができるようなオルタナティブなジェンダー指標を作成することは、国際的なジェンダー不平等是正に有効であると考えらる。

### 3. GEM 修正版作成の試み

前節で、GII と GEM の順位にかい離が見られ、GII による GEM の代替可能性の問題を提起した。GII は、各国のジェンダー・エンパワーメント状況を十分に反映していない可能性が高い。本稿は、把握が困難とされる意思決定における男女共同参画度に焦点を置き、ジェンダー主流化政策の策定や施行の評価を可能とする GEM 修正版を作成し、ジェンダー・エンパワーメント尺度を復活させる。具体的には、GEM 修正版作成の主な目的を次の 2 点とする。1) 客観的な変数である男女共同参画度だけでなく、主観的な変数の性差別意識も反映させ、ジェンダー・エンパワーメント状況を包括的に把握する。2) 男女共同参画についての客観的ならびに主観的な状況と、各国に存在する社会の男女格差との相関関係を検証する。GII に代替された GEM は政治経済的ジェンダー研究等で、いまだ利用価値が高い<sup>(4)</sup>ことをふまえ、女性が意思決定過程に参加し、ジェンダー視点がより効果的に政策に反映できるように、国際的に比較可能となった男女共同参画への主観的変数の意識を加えた包括的なジェンダー・エンパワーメント尺度として GEM を新たに使用可能にするのである。ただし GEM 修正版では、既存のジェンダー指標の代替の提示が目的ではなく、旧来の男女共同参画度（客観的要因）に男女共同参画に対する意識（主観的要因）を加味することによって、オー

ルタナティブなジェンダー指数として包括的なジェンダー・エンパワーメント状況を国別に比較することを目指す。

### 3.1 ジェンダー・エンパワーメント

「エンパワーメント」とは、一般的に「力をつけること」や「何かをできるようにする」という意味で、人権運動、ジェンダー問題、国際協力、地域開発、経営学、ビジネス、ソーシャルワーク、コミュニティ心理学、社会福祉、保健医療、教育など幅広い分野で、使用される用語であるが、「エンパワーメントの対象者は、何らかの形で社会から否定的な評価を受け、本来人間が持っている能力や感性等の力が発揮できない、力が欠如した状態である」とされている（久保田 2005：27）。開発援助や国際協力分野においては、女性のエンパワーメントとは、「収入や技術を得るのみならず、女性が問題を自覚し、生活や人生のうえで自己決定権を持つようになり、他の女性たちと連帯して、社会的不平等を克服するという総合的・長期的な取り組みを意味する」（田中他 2002：319）。本稿では、ジェンダー・エンパワーメントを、「否定され、また失われた政治的・経済的・社会的な役割や権利を女性が取得すること」と定義する。

### 3.2 性差別の「意識」と「価値観」

日本における男女共同参画に関する意識調査の結果を基に、辻村みよ子は「女性の社会進出を阻む意識」が存在すると指摘する（辻村 2011b：3）。「社会的に創出された」ジェンダーという概念が、「社会階層文化の重要な一形態になっている」（ギデンズ 2010：478）とすると、家族のみならず、政治や経済分野での個人の役割分担に対するジェンダーの影響は底知れない。政策決定過程や意思決定過程においても、性差別意識がまん延している限りは、能力がある女性がリーダーとして選ばれる可能性は低く、身近に女性のリーダーが存在しなければ前例がない人事となり、能力を兼ね備えていても女性が地位につく可能性を低くする。ジェンダー不平等が改善されるためには、「女性でも党首や首相になれる」や「女性の上司の指示を受けることができる」などの女性のリーダーを受け入れる「価値観」が、男女問わず必要である。男女共同参画が推進され、まずは政策意思決定者が、ジェンダー不平等を「意識」し改善する「価値観」を共有することがなければ、ジェンダー・エンパワーメントを可能にすることが困難である。

国際的な社会調査の一つである World Values Survey（世界価値観調査）は、「収入が得られる仕事と同じくらい主婦業は充実したものであるか」・「仕事の数（求人）が少ない場合、女性より男性が仕事に就く権利を持つべきか」・「民主主義において、女性は男性と同じ権利を持つことは不可欠だと思うか」・「大学での

教育は女の子より男の子にとって重要であるか・「いかなる時でも、男性は妻を殴ることを正当化できるか」<sup>(5)</sup>等、ジェンダー不平等問題に関する重要な価値観調査の結果を公表している。こうした世界規模の量的社会調査は、人々にグローバル社会の中で文化や慣習による価値観の違いを認識せしめ、グローバル市民の人権を保護する役割を果たすことにもつながっている。

近年、Mark Brandt が行った 57 カ国調査では、一個人の性差別意識が、社会全体のジェンダー不平等を容認したり、助長することにつながるという。また Brandt は、国会における女性議員の割合を増やすだけでなく、社会意識を変えることが社会のジェンダー不平等の改善につながると主張する (Brandt, 2011)。過去にも、性差別意識は、女性候補者に投票する確率を低くするとする調査結果 (Swim, Aikin, Hall, & Hunter, 1995) があり、男女共同参画を阻む原因として性差別意識は重要な問題である。

経済活動におけるリーダーとしての女性管理職に対する性差別意識も、ジェンダー・エンパワーメントを妨げる要因の一つとなる。山口一男は、男性管理職の「女性は意識に乏しく、責任感が薄い」という女性管理職への性差別意識が「女性の管理者を育成しない⇒増えない」という職場の悪循環を産むと指摘する<sup>(6)</sup>。女性の働く姿勢の甘さや「結婚や出産で辞める」という女性の「腰かけ意識」の改善は、こうした性差別意識とも関連があると思われる。女性登用の機会や女性が活躍できる可能性を肯定する男性の意識、女性管理職育成が会社の利益につながるという価値観は、ビジネス界においてのジェンダー・エンパワーメントを可能にし、女性の社会進出を促進すると考える。

### 3.3 GEM 修正版の変数と指数化の作成

GEM 修正版では、意思決定における男女共同参画度と社会意識を指数化し、ジェンダー不平等改善を目的とした国際比較が可能なジェンダー・エンパワーメント尺度をめざす。したがって、女性の生活の質 (Well-being) や人権に関わるジェンダー不平等さを正確に把握すること目的としない。Hanny Beteta が提唱したジェンダー・エンパワーメントを可能にする環境 (Gender Empowerment Enabling Environment) の確立の度合いの把握を目的として、意思決定過程での女性の参加度が高く、また女性を意思決定者として受け入れる価値観が高いほど、順位が上になるように作成した。

以下が今回使用する GEM 修正版を構成する 5 つの変数である。GEM 修正版では、意思決定過程におけるジェンダー・エンパワーメントに焦点を置くため、GEM の構成要素であった「技術職・専門職に占める女性の割合」と「男女の勤労推定所得」のデータは削除し、男女共同参画に対する意識を変数として加えた。

- ① 国会議員に占める女性の割合
- ② 閣僚に占める女性の割合
- ③ 上級行政職・管理職に占める女性の割合
- ④ 「男性の方が女性より優れた政治のリーダーになれるか」を否定する価値観を持つ男女の割合
- ⑤ 「男性の方が女性より優れたビジネスリーダーになれる」を否定する価値観を持つ男女の割合

変数①②③は客観的、変数④⑤は主観的な性質をもつ異なった変数である。また女性の意思決定過程における参加度と性差別意識は、因果関係はまだ明確ではないものの、互いに影響し合う変数であることが推測される。例えば、「男性が女性より政治的リーダーに適している」と思う人々は、選挙で女性候補者に投票しない可能性があり、また男性が大統領や国会議員を長く歴任していた場合、前例がないため、「男性が女性より政治的リーダーに適している」と考える人の割合も増加する。社会意識は、社会指標作成において重要視されるようになり、近年世界銀行等が、経済開発に寄与する重要な社会的資本 (social capital) として調査し、各国ごとのデータベース<sup>(7)</sup>を作成している。レスター大学の社会心理学者 Adrian White の「世界幸福度ランキング (Happy Planet Index)」調査<sup>(8)</sup>では、客観的データである平均寿命やエコロジカル・フットプリントと、主観的な社会意識をデータベースにした生活の質を指数化し世界各国をランク付けしている。また英国の Legatum Institute は、世界の wealth と well-being を測定する唯一の指標として The 2011 Legatum Prosperity Index<sup>(9)</sup>を、経済的指数として失業率やインフレーション率、政治の安定性等などの政治的指数、教育等と並べて社会的資本として算出し、110 各国に順位を付けている。以上の先行事例のように、客観的な変数も主観的な変数も同様に重要であることを認識した上で、本稿ではジェンダー・エンパワーメント尺度 (GEM) の修正版を作成した。

本稿では、意思決定過程における女性の参加度の指標として、国連が集計した「国会議員に占める女性の割合 (2009 年)」、「閣僚に占める女性の割合 (2009 年)」と「上級行政職・管理職に占める女性の割合 (2009 年)」を客観的変数として使用する。「国会議員に占める女性の割合」は GEM や GII でも扱われたが、エリート家族による女性議員の当選、フェミニストを排除しようとする政党の存在、また女性議員の質等に疑問や批判も多い (Beteta 2006)。一方で世界の 100 カ国近くの国がクオータ制を導入し、国政への女性参画は 30% を超える発展途上国も存在する。ジェンダー主流化というジェンダー視点を取り入れる政策においても、

女性が政策決定過程に共同参画することは重要である。GEM 批判の中に、地方政治における女性の参画状況も含むべきであるとの意見もあり、国によっては、中央立法・行政レベルより地方政治での女性共同参画の方が、ジェンダー不平等を改善出来る場合もある。政府の機能が低下した国においては、非政府団体(NGO/NPO)等における女性の地位向上が、ジェンダー平等を効果的に推進できる事例も存在する。これは、女性の政治的エンパワーメント状況をより適切に分析するには、地方の側面や組織や団体で活躍する女性の数を把握することが不可欠であるとの見方である(富田 2010)。しかし、各国の政治の仕組みによって、地方政治や非政府団体のジェンダー政策への影響が相違するため、今回は国会議員と閣僚における女性の占める割合を変数として使用することにする。

また、男女共同参画に対する価値観を主観的変数として扱い、意思決定過程において重要な役割を担っていると仮定する。価値観は、「個人や集団が、何が望ましいか、何が妥当か、何が良いか、さらには何が悪いかなどに関して抱く理念。価値観の相違は、人間の文化に見出す多様性の重要な側面を示す。一人ひとりが何を価値あるものとみなすかは、その人がたまたま生きている特定の文化によって強い影響を受ける。」(ギデンス 2010:用語説明 6)と定義する。

2つの主観的変数である性差別意識は、World Values Survey(世界価値観調査)からの抜粋である。この大規模な国際プロジェクトは、ミシガン大学社会調査研究所のロナルド・イングルハートが中心となり、1981年から5年ごとに行われている。日本の調査は、2005年から電通・電通総研と日本リサーチセンターが共同で参画している(電通&日本リサーチセンター、2008)。本稿は、2005年から2007年に、各国や地域<sup>(10)</sup>の18歳以上男女1000人をサンプルとした個人対象の意識調査の中から、意思決定過程における男女共同参画に焦点を当てた2項目を選択した。具体的には、性差別の価値観「男性の方が女性より優れた政治のリーダーになれる」と「男性の方が女性より優れたビジネスリーダーになれる」を

表 3 主成分分析結果

	主成分負荷量
閣僚に占める女性の割合 (%)	0.818
国会議員に占める女性の割合 (%)	0.814
上級行政職・管理職に占める女性の割合 (%)	0.618
「男性の方が女性より優れた政治のリーダーになれる」(否定) (%)	0.936
「男性の方が女性より優れたビジネスリーダーになれる」(否定) (%)	0.923
寄与度 (固有値)	3.441
寄与率 (%)	68.821

女性の意思決定過程参画を阻害する変数として採用する。変数の数値は、両項目に対して「同意しない」と「強く同意しない」と回答した割合を「否定」の割合として用いた。

### 3.4 主成分分析

先に議論した五つの変数に適切な重みをつけ合成尺度を作成するため、主成分分析を行った。固有値が1以上という基準で主成分を抽出したところ、表3にあるように、1つの主成分が抽出された。使用した5項目のクロンバック(Cronbach)の $\alpha$ 信頼係数は、0.879であり、この指数の信頼性は高いものと言える。そして、主成分分析の結果をもとに、各国の第一主成分得点を求めたところ、表4のようになった。表4の総合スコアは各国の第一主成分得点に対応し、この得点が高い国ほどジェンダー・エンパワーメント度も高く、低い国ほどジェンダー・エンパワーメント度も低いことを示している。なお、表4には、総合スコアを計算するために使用した五変数の情報も記載してある。

## 4. GEM 修正版結果と考察

GEM 修正版は、5つの変数のデータが入手可能であった45カ国で構成されている。サンプル数が既存のジェンダー指数の約3分の1なので、総合順位は45カ国の相対的評価に基づいている。GEMでも常時最上位国スウェーデン、フィンランド、ノルウェーがGEM修正版でも上位3カ国となった。これらの国は、ジェンダー平等と女性のエンパワーメントを意識的に国家政策として取り入れてきた国々である。GDIやGIIで上位に位置した韓国や日本は下位のグループに属し、イスラム教徒の多い国、インドネシア、マレーシア、モロッコ、トルコ、イラン、エジプトは最下位グループに属する結果となった。

国会における女性議員の割合では、クオータ制の取り組みの影響が出てきている。クオータ制には、3種類で、1) 憲法または法律のいずれかによる議席割当制(東アフリカの国に多いが、表4上ではモロッコ、エジプト) 2) 憲法または法律のいずれかによる候補者クオータ制(表4上では、メキシコ、アルゼンチン、ブラジル、ペルー、ウルグアイ、韓国、インドネシア、フランス、ポーランド、セルビア、スロバニア、スペイン) 3) 政党による自発的なクオータ制(表4上では、南アフリカ、カナダ、オーストラリア、タイ、キプロス、ドイツ、イタリア、オランダ、ノルウェー、スウェーデン、スイス、イギリス)である(内閣府2011)。しかし30%を超える国は、3分の1以下の11カ国に留まり、女性官僚に関しては、30%以上の国が11カ国だが、官僚の約半数を女性が占める国は4カ

表4 ジェンダー・エンパワーメント尺度修正版 (GEM 修正版)

国名	総合 順位	総合 スコア c	女性議員 割合(%)a	女性関係 割合(%)a	女性管理職 割合(%)a	男性政治リ ーダー否定(%)b	男性ビジネスリ ーダー否定(%)b
スウェーデン	1	1.85426	47	48	32	92	93
フィンランド	2	1.54584	42	58	29	81	82
ノルウェー	3	1.46917	36	56	31	86	81
スペイン	4	1.18663	34	44	32	79	82
トリニダード・トバコ共和国	5	1.12565	33	36	43	73	80
スイス	6	1.11759	27	43	30	84	87
オランダ	7	1.10873	39	33	38	81	83
ドイツ	8	1.09419	31	33	38	81	83
フランス	9	1.08381	20	47	38	79	86
ベルギー	10	0.88337	29	29	29	83	86
オーストラリア	11	0.80589	30	24	37	75	81
カナダ	12	0.76527	25	16	37	82	89
アメリカ	13	0.66346	17	24	43	75	84
イギリス	14	0.65867	20	23	34	80	83
イタリア	15	0.64137	20	24	34	81	83
ウルグアイ	16	0.60362	12	29	40	80	81
アルゼンチン	17	0.56533	40	23	23	68	75
南アフリカ	18	0.45658	34	45	34	49	57
メキシコ	19	0.29742	22	16	31	72	77
コロンビア	20	0.27253	10	23	38	71	78
ポーランド	21	0.15069	18	26	36	57	71
ブルガリア	22	0.12933	22	24	31	52	76
スロバニア	23	0.10644	10	18	34	70	78
セルビア	24	0.03495	22	17	35	59	66
エチオピア	25	0.02072	21	9	16	77	80
チリ	26	-0.11979	13	41	23	51	64
ブラジル	27	-0.14804	9	11	35	68	70
モルドバ	28	-0.26559	22	11	4	48	56
キプロス	29	-0.26803	14	18	15	65	74
ベトナム	30	-0.63459	26	4	22	43	58
中国	31	-0.64583	21	9	17	46	63
タイ	32	-0.68181	13	10	30	49	53
ザンビア	33	-0.67262	15	17	19	50	53
ロシア	34	-0.76339	11	10	39	38	49
日本	35	-0.77247	12	12	9	56	64
ウクライナ	36	-0.82721	8	4	39	45	49
ルーマニア	37	-1.01226	10	0	28	45	51
インドネシア	38	-1.02777	12	11	14	39	58
マレーシア	39	-1.11623	15	9	23	32	46
グルジア	40	-1.11623	6	18	34	32	33
韓国	41	-1.24728	14	5	9	42	50
モロッコ	42	-1.24728	6	19	12	42	43
トルコ	43	-1.48551	9	4	8	39	46
イラン	44	-2.13644	3	3	13	21	21
エジプト	45	-2.39578	4	6	11	8	14

注：UNDP (2009) からのデータ(a)と World Values Survey Association (2005) のデータ(b)を主成分分析し、第一主成分得点を総合スコア(c)とした。

国ある。

女性管理職の割合にも、一部クオータ制の取り組みの影響が出ている。女性役員の登用を義務付けるクオータ制は、フランス、イタリア、オランダ、スペイン等で導入済みで、フィンランドとスロバニアでは国営会社に限り導入されている。今後、男女共同参画が進む欧州連合（EU）では、上場企業などに一定以上の女性役員登用を義務付ける法案の検討に入ると発表した。役員は3～4割を女性に割り当てる目的で、企業の自助努力では不十分という見方がある。欧州委員会は、現在の上場企業における女性役員の割合は平均13.7%で、この割合を2015年までに30%、20年までに40%に引き上げる予定で、女性管理職の割合が高くなることが予想される<sup>(11)</sup>。

社会意識の二つの価値観については、「全体的に、男性は女性より優れた政治的リーダーになれる」と「全体的に、男性は女性より優れたビジネスリーダーになれる」という意見<sup>(12)</sup>に対し、「強く同意する」「同意する」「同意しない」「強く同意しない」<sup>(13)</sup>の4つから選択回答を得てデータを集計している。2つの価値観の数値を比較すると、ノルウェー以外、「男性が優れたビジネスリーダーになる」を否定する割合が「男性が優れた政治的リーダーになれる」を否定する割合を上回った。女性においては、政治的リーダーシップを執る方が、ビジネスの管理職に就くよりハードルが高いと意識されている。GEM 修正版の最下位のエジプトは、この2つの価値観で低い数値（政治：7.5%、経済：14.2%）を示した。エジプトの場合、「男性の方が優れた政治的リーダーになれる」に「強く同意する」と答えた人が73%、「男性の方が優れたビジネスリーダーになれる」に「強く同意する」と答えた人は、63%を占め、男女共同参画を強く否定する社会意識が存在することが判明した。

主観の変数である「男性の方が女性より優れた政治的リーダーになれる」という価値観と客観の変数である女性の政治参画度との関係でみると、「男性の方が優れた政治的リーダーになれる」という質問に多数が「同意しない」と回答しているにもかかわらず、多くの国では女性議員の割合は高くない。「同意しない」の回答には「同意しない」と「強く同意しない」2種類あり、国民性や文化的要素を配慮して、今回はこの2種類の回答を1つの尺度として扱ったが、「強く同意しない」と答えた人が50%を越えたのは、ノルウェー（62.8%）とスペイン（50.3%）だけであった。フランス（45.1%）、スウェーデン（40.9%）がそれに続くが、多くの国では「強く同意しない」割合が低いことから、この“差別”意識（男性の方が優秀な政治的リーダーになるということに反対ではあるが強い反対ではないことに依拠する間接的な“差別”意識）が選挙や政治的リーダー選出に影響する可能性は高いと考える。

また、「男性の方が女性より優れたビジネスリーダーになれるか」という価値観に、37 カ国において 50%以上の割合の人が「同意しない」と回答し、「女性でも優れたビジネスリーダーになれる」と思う人が多く存在すると推測される。しかし、「強く同意しない」と答えた人が 50%を越えた国は、フランス (54.8%)、ノルウェー (59.6%)、スペイン (55.3%) の 3 ヶ国だけであった。同質問に「強く同意しない」と回答した人の割合が 40%以上の国も、ドイツ (44.8%)、スウェーデン (48.1%)、スイス (43.6%) と 3 カ国のみで、政治参画度に関する価値観と同様、男女“差別”意識がビジネス界にも存在していると思われる。

#### 4.1 GEM 修正版結果における考察：GGGI との関連

表 4 の GEM 修正版は、女性の意思決定過程への参加度と性差別意識調査を基に作成された合成尺度である。この合成尺度作成の理由は、ジェンダー平等を推進するために、男女共同参画の仕組みと、男女共同参画に対する肯定的な社会意識が重要であると仮定するからである。クォータ制を導入して女性が意思決定者になっても、性差別意識が残っていれば、男性が今まで保持していた権力や権限を女性と分かち合うことを拒否する可能性がある (Rao and Kelleher 2005 : 58)。制度のような枠組みだけでなく、その中で実際に働く人々の価値観が変化しなければ、ジェンダー平等の推進も困難であるといえる。

GEM 修正版の有効性を考察するために、本稿では GGGI との関連を検証する。スイスの非営利財団「世界経済フォーラム」は、2006 年からグローバル・ジェンダー・ギャップ指数 (GGGI) を、社会における男女格差を測るジェンダー指数として発表している。GGGI は政治、経済、教育、保健分野でのデータで構成され、各国の男女参画のレベルではなく格差を測定し、女性のエンパワーメントではなくジェンダー平等に焦点を当てることが特徴であり、男女格差を指数化している。第 6 版となる 2011 年版 GGGI は、世界人口の 93%をカバーする 135 カ国をランク付けし、85%の国でジェンダー不平等が改善されたが、依然として世界の政策決定者の女性の占める割合は 20%以下であると報告している (World Economic Forum 2011)。このように GGGI は国際的なジェンダー平等の指標として有効性が重要視されている。そこで本稿では、男女共同参画度に対する意識を加えたジェンダー・エンパワーメント指数が高い国ほど、男女格差は小さい傾向にあるという仮説を、他のジェンダー指標と比較検証する。

GEM 修正版ならびに修正前の GEM、GII、GDI と GGGI との順位相関数は表 5 のとおりである。2009 年の GGGI と GEM 修正版に共通する 43 カ国の順位相関係数は、0.870<sup>(14)</sup> と高い相関関係を示した。従来の GEM と GGGI の順位相関係数は、0.864<sup>(15)</sup> となり、GEM 修正版の方が、GGGI との相関係数が高く、優位

である。また、表5に示すように、GII や GDI と GGGI との順位相関値を比較すると、GEM 修正版の相関係数の方が高い。ジェンダー不平等を測ったGIIと男女格差を計測したGGGIの相関係数が一番低く、ジェンダー平等問題やジェンダー格差の指標の複雑さが推測される。GGGIとの関連性より男女共同参画に対する意識（主観的要因）を加えたジェンダー・エンパワーメント指数が高い国ほど、社会における男女格差が小さい傾向にあるとの結果から、社会意識という目に見えない男女共同参画を阻む要因の重要さが示唆された。

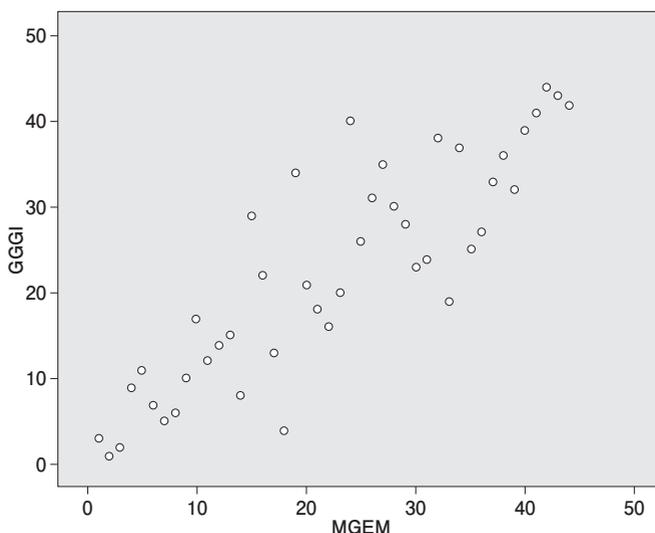
表5 GGGI と GEM 修正版・GEM・GII・GDI の順位相関係数

	GEM 修正版	GEM (2009)	GII (2010)	GDI (2009)
GGGI (2009)	0.870*	0.864*	0.611*	0.619*

\*有意水準1% (p<.01)

図1は、GEM 修正版の順位とGGGIの順位は正の相関で、客観的・主観的なジェンダー・エンパワーメント指数が高い国ほど、政治・経済・教育・保健分野における男女格差が小さい傾向にあることを明らかにしている。

図1 GEM 修正版の順位とGGGI 順位の散布図



## 5. おわりに

国際社会でのジェンダー平等を推進する活動や、各国の多種多様なジェンダー問題解決を促進するために、ジェンダー指標は有効な手段であるが、世界各国の複雑なジェンダー不平等状況を変数化し、一つの合成尺度を作成することは困難である。したがって、国際比較可能なジェンダー指標の種類を増やし、ジェンダー不平等の原因や対策を模索する必要があると考える。そこで本稿では GDI と GEM を一本化した GII を検証し、意思決定過程における客観的な男女共同参画度と性差別意識という主観的要因を変数化し GEM 修正版の作成を試みた。この指標は、各国のジェンダー・エンパワーメント状況を包括的に把握する量的調査結果を算出した数値に基づく。現時点では GEM 修正版のランキングを利用し対象国を比較分析することは可能であるが、国際社会の多くの国を比較することのできるデータがまだ不十分で、オルタナティブなジェンダー指標としての有効性にはまだ課題を残している。だが男女共同参画への主観的な指標を加味した GEM 修正版は、GGGI との関連性の高さから一定の意義を示すことができた。同時にジェンダー不平等や格差を是正し男女共同参画を推進するためには、客観的な指標のみならず、主観的な指標を反映することの重要性も示唆することができた。多様な文化、歴史、伝統に影響されやすい「ジェンダー平等」や「男女共同参画社会」の定義は、各国や地域社会で熟慮することが大切であるが、ジェンダー不平等を改善することを目的とする国際比較可能でオルタナティブなジェンダー指標の構築は、今後もさらに必要であると考えられる。

**【謝辞】** 有益なご意見と的確なご指摘を頂いた 3 人の査読者の方々と、統計に関するご指導を頂いた立教大学の金澤悠介氏に、心より感謝申し上げます。

(くらもと ゆきこ 立教大学)

### 【注】

- (1) 有意水準 1 % ( $p < .01$ )
- (2) 有意水準 1 % ( $p < .01$ )
- (3) 日経新聞 電子版 2012 年 2 月 15 日
- (4) 例えば、山口一男「経済教室：低い女性の管理職比率」日本経済新聞 2012 年 7 月 16 日 19 頁
- (5) 筆者日本語訳。実際の質問票の記述は、“Being a housewife is just as fulfilling as working for pay.”; “When jobs are scarce, men should have more right to a job than women.”; “Many things may be desirable, but not all of them are essential characteristics of democracy.

Please tell me for each the following things how essential you think it is as a characteristic of democracy: Women have the same rights as men.”; “A university education is more important for a boy than a girl.”; “Please tell me for each of the following actions whether you think it can always be justified, never be justified or something in between: For a man to beat his wife.”

- (6) 日経新聞 2012年3月6日 9頁
- (7) 世界銀行のウェブサイト参照。  
<http://web.worldbank.org/WBSITE/EXTERNAL/TOPICS/EXTSOCIALDEVELOPMENT/EXTTOSIALCAPITAL/0,,contentMDK:20642703-menuPK:401023-pagePK:148956-piPK:216618-theSitePK:401015,00.html>
- (8) 「世界幸福度ランキング (Happy Planet Index)」 <http://www.happyplanetindex.org/about/>
- (9) The 2011 Legatum Prosperity Index ホームページ参照 <http://www.prosperity.com/default.aspx>
- (10) 57 調査対象国や地域は次の通りである：アンドラ、アルゼンチン、オーストラリア、ブラジル、ブルガリア、ブルキナファソ、カナダ、チリ、中国、コロンビア、キプロス、エジプト、エチオピア、フィンランド、フランス、クロチア、ドイツ、ガーナ、グアテマラ、香港、インド、インドネシア、イラン、イラク、イタリア、日本、ジョーダン、マレーシア、マリ、メキシコ、モルディブ、モロッコ、オランダ、ニュージーランド、ノルウェー、ペルー、ポーランド、ルーマニア、ロシア、ルワンダ、セルビア、スロバニア、南アフリカ、韓国、スペイン、スウェーデン、スイス、台湾、タイ、トリニダード・トバコ共和国、トルコ、ウクライナ、イギリス、ウルグアイ、アメリカ、ベトナム、ザンビア
- (11) 日経新聞 2012年3月6日
- (12) 筆者日本語訳。実際は，“On the whole, men make better political leaders than women do.” “On the whole, men make better business executives than women do.” と優れた政治指導者や会社の管理職になれる要素に「ジェンダー」が影響することを強調した質問になっている。
- (13) 筆者日本語訳。実際は，“Strongly agree,” “Agree,” “Disagree,” and “Strongly disagree.”
- (14) 有意水準 1% ( $p < .01$ )
- (15) 有意水準 1% ( $p < .01$ )

#### 【引用・参考文献】

- 天野晴子 2004 「ジェンダー統計に関する調査研究」『国立女性教育会館研究紀要』8：81-91。
- 浅倉むつ子 2004 「男女共同参画施策の法的課題—ジェンダー平等の達成に向けて」『大原社会問題研究所雑誌』2004.5 No.546。
- Barns, Alison and Preston, Angela. 2010. Is Australia Really a World Leader in Closing the Gender Gap? *Feminist Economics* 16(4), 81-103.
- Bergquest, Christina and Sainsbury, Diane. 2009. The Promise and Pitfalls of Gender Mainstreaming. *International Feminist Journal of Politics*, 1(2), 216-234.
- Beteta, Hanny. 2006. What is Missing in Measures of Woman's Empowerment? *Journal of Human Development*, 7(2), 222-241.
- Brandt, Mark. 2011. Sexism and Gender Inequality Across 57 Societies. *Psychological Science*, 1-6. <http://pss.sagepub.com>
- 男女共同参画局 2011 男女共同参画白書 平成 23 年度版 <http://www.gender.go.jp/>
- 電通総研・日本リサーチセンター編 2008 「世界主要国価値観データブック」同友社
- Dijkstra, Genske and Hanmer, Lucia. 2002 Measuring Soci-Economic Gender Inequality: Toward

- an Alternative to the UNDP Gender-related Development Index. *Feminist Economics*, 6(2), 41-75.
- Dijkstra, Genske 2002. Revisiting UNDP's GDI and GEM: Towards an Alternative. *Social Indicators Research* 57, 301-338.
- Dijkstra, Genske. 2006. Towards a Fresh Start in Measuring Gender Equality: A Contribution to the Debate. *Journal of Human Development*, 7(2). July, 275-283.
- Dollar, David and Gatti, Roberta. 1999. Gender Inequality, Income and Growth: are Good Times Good for Women? *World bank Policy Research Report Working Papers*, 1.
- Ferrant, Gaelle. 2010. The Gender Inequalities Index (GII) as a New Way to Measure Gender Inequalities in Developing Countries. *CES Working Papers*. February,
- ギデンス, アンソニー 2010『社会学 第五版』而立書房.
- Han, Lori. 2010. *Women and US Politics*. Lynne Reinner Publishers, Inc. London.
- Jutting, Johannes and Morrison, Christian 2006 The Gender, Institutions and Development Data Base. *OECD Working Paper*, (16).
- 国連開発計画『ジェンダーと人間開発』人間開発報告書 1995 日本語版 国際協力出版社.
- 久保田真弓 2005「エンパワーメントに見る男女平等と公正：対話に実現に向けて」『国立女性教育会館研究紀要』9 27-38.
- 久邇良子 2010「フランスの政治過程への女性参画」日本政治学会編、『年報政治学 2010-II ジェンダーと政治過程』木鐸社
- 倉本由紀子 2010「開発とジェンダー：政府開発援助のジェンダー主流化」『人間文化研究所紀要』5 79-88.
- Kusakabe, Kyoko.(2005). Gender Mainstreaming in Government Offices in Thailand, Cambodia, and Laos. *Gender and Development* 13, 2, 46-55.
- Moser, Annalise and Moser, Caroline. 2005. Gender Mainstreaming Since Beijing: a Review of Success and Limitations in International Institutions. *Gender and Development*, 13: 2, 11-22.
- 村松安子 2011「マクロ経済学とジェンダー化」辻村みよ子編『壁を越える：政治と行政のジェンダー主流化』岩波書店 65-88.
- 中谷毅 2010「ドイツにおける女性議員のクォータ制」日本政治学会編『年報政治学 2011-II ジェンダーと政治過程』木鐸社 48-85.
- 日経新聞 電子版 2012年2月15日 7:00時点
- 日経新聞 2012年3月6日 9頁
- Swim, Aikin, Hall & Hunter 1995. Sexism and Racism: Old-fashioned and Modern Prejudices. *Journal of Personality and Social Psychology*, 68, 199-214.
- 竹中千春 2011「南アジアにおけるジェンダーと政治」日本比較政治学会『ジェンダーと比較政治学』ミネルヴァ書房 195-228.
- 田中由美子, 大沢真理, 伊藤るり編 2002『開発とジェンダー：国際協力のエンパワーメント』国際協力出版会
- 田中由美子 2004「国際協力におけるジェンダー主流化とジェンダー政策評価—多元的視点による政策評価の一考察」日本評価学会『日本評価研究』2004, 4(2)1-12.
- 土佐弘之 2011「比較するまなざしと交差性」日本比較政治学会編『ジェンダーと比較政治学』ミネルヴァ書房 33-72.
- 富田昌子 2010「女性の政治的エンパワーメント測定に関する一考察」日本国際政治学会『ジェンダーの国際政治』有斐閣 97-109.
- 辻村みよ子 2011a「序論 男女共同参画型の多元的ガバナンスへ」辻村みよ子編『壁を越える：

- 政治と行政のジェンダー主流化』岩波書店 1-17.
- 辻村みよ子 2011b 「政治参画と代表制論の再構築」辻村みよ子編『壁を越える：政治と行政のジェンダー主流化』岩波書店 21-42.
- True, Jacqui. 2003. Mainstreaming Gender in Global Public Policy. *International Feminist Journal of Politics*, 5 : 3, 368-396.
- Rao, Aruna and Kelleher, David. Is There after Gender Mainstreaming? *Gender and Development*, 13 : 2, 57-69.
- UNDP. 1995. *Human Development Report*. Oxford: Oxford University Press.
- UNDP. 2009 & 2011. *Human Development Report*. <http://hdr.undp.org>.
- Waal, deMaretha. 2006. Evaluating Gender Mainstreaming in Development Projects. *Development in Practice*, 16 : 2, 209-214.
- Walby, Sylvia. 2005. Introduction: Comparative Gender Mainstreaming in a Gobar Era. *International Feminist Journal of Politics*, 7 : 4, 453-470.
- World Bank. 2012 *World Development Report 2012: Gender Equality and Development*, Washington DC: The World Bank. <http://go.worldbank.org>
- World Economic Forum. 2011. *Global Gender Gap Report 2011*. <http://www.weforum.org/reports/global-gender-gap-report-2011>.
- World Values Survey Association. *World Values Survey 2005*. <http://www.worldvaluessurvey.org/>.

(2012年9月25日 掲載決定)

# **Gender Inequality Index (GII) Analysis and the Need for A Modified Gender Empowerment Measure**

KURAMOTO Yukiko

(Rikkyo University)

The Human Development Report 2010 introduced the Gender Inequality Index (GII), which replaced the Gender-related Development Index (GDI) and the Gender Empowerment Measure (GEM). This new index is supposed to reflect female gender inequality in three dimensions: reproductive health, empowerment and the labor market. Yet can GII reveal gender inequality issues in various nations? Should we consider different measures to improve gender empowerment problems? To answer these questions, this study analyzed GII, and proposes new gender-related variables which constitute a modified gender empowerment measure (M-GEM). This study proposed the M-GEM because 1) objective and subjective gender empowerment variables are useful to comprehend multidimensional gender empowerment status, and 2) gender inequality policies and measures should include a measure of the value placed on women in society. This study attempted to create M-GEM with the following variables: 1) proportion of seats in parliament held by women; 2) proportion of women in ministerial position; 3) female legislators, senior officials and managers; and 4) the value placed on women in society. Utilizing the M-GEM this study found that in those societies that value women more highly, women possessed greater degree of empowerment.

**Keywords :** Gender Inequality Index (GII), Gender Empowerment Measure (GEM), gender inequality, gender empowerment, value of women in society